

学会企画シンポジウム「女性研究者のキャリア形成」開催報告

開催日時：2019年9月12日（木）13:20~15:20

企画：日本心理学会男女共同参画推進委員会

話題提供者：村松泰子（(公財)日本女性学習財団）

話題提供者：亀井美弥子（湘北短期大学）

話題提供者：滑田明暢（静岡大学）

指定討論者：田口久美子（和洋女子大学）

司会者：青野篤子（福山大学）

参加者：約35名

研究者は日本で女性が圧倒的に少ない職種のひとつであり、その女性比率は15.7%と世界に大きく遅れをとっている。こうした状況を打開するために、本シンポジウムでは、女性研究者のキャリア形成の実態と今後の方策についての話題提供・指定討論ののち、フロアとのディスカッションが行われた。

国立大学の学長を歴任された村松泰子さんからは、ご自身のキャリアについての紹介の後、学長就任前後の男女共同参画推進の取り組み(学内保育所設置、管理職への女性の積極的な登用など)や取り組みによる成果（職場に女性がいる景色作り、女性管理職の増加、他大学への波及効果）などが報告された。

亀井美弥子さんからは、子育てをしながら研究を続けてきた経験から、地域での子育てをめぐる新たなつながりが紡がれたこと、研究を続けていきたいという意思をもち少しずつ研究の積み重ねをしていくこと、母親だけではなくどの人も必ず引き受ける「ケアと生産」という新たな研究視点が拓かれたことなどが報告された。

滑田明暢さんからは、GEAHSS（人文社会科学系学協会男女共同参画推進委員会）と日本学術会議第一部会ジェンダー分科会によって行われた第1回実態調査の結果や課題についてご報告いただいた。全体的に、女性研究者は男性研究者に比べて不利な状況であることが明らかになり、その傾向は学位をとるまでの期間、任期の有無などに現れていた。研究時間は子育て中の既婚女性をもっとも短かったが、全年代をとおして女性の方が短かった。

フロアからは、調査結果に関する質問やこれからの自分自身のキャリア形成への新たな展望など、話題提供を受けて活発なディスカッションが交わされた。引き続き行われた女性研究者ネットワークイベントには、シンポジウムに共感した女性研究者たちが多く駆けつけた。初の学会企画となった今回のシンポジウムは、女性研究者のキャリア形成の促進に向けて、大きな1歩を踏み出すイベントとなった。

文責・田口久美子